

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	Kim Hyungkee 教授による講義「東アジア比較経済論」の実施
<b>代表者名</b>	宇仁宏幸
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>韓国の慶北大学校教授 Kim Hyungkee 氏を招聘し、経済学研究科東アジア持続的経済発展研究コースにて、英語講義「東アジア比較経済論」を、下記のような内容で 2016 年春学期集中講義として 8 回実施した。</p> <p>7 月 19 日: East Asian Miracle Revisited            7 月 20 日: Prototype and variants of East Asian Development Model            7 月 21 日: Transformation I: Marketization and Privatization            7 月 22 日: Transformation II: Liberalization of Financial Market            7 月 25 日: Transformation III: Changes in Corporate System            7 月 26 日: Transformation IV: Flexibilization of Labor Market            7 月 27 日: Growth and Crisis of East Asian Development Model            7 月 28 日: Towards Sustainable East Asian Development Model</p>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>Kim Hyungkee 教授の講義では、韓国、日本、中国に焦点を当て、東アジアのこれまでの経済発展および構造変化のあゆみとしくみが明らかにするものであった。まず、東アジアの第二次対戦後の経済発展の歴史を振り返り、それを踏まえて、東アジアの経済発展モデルの原型とその変種が説明された。次に、近年のグローバル化と新自由主義の影響による経済発展モデルの転換について説明が行われ、また、それにもなつて東アジアに生じている現在の社会的諸問題が、企業システムや労働市場に焦点をあてて、詳しく説明された。特に、ケース・スタディとして、韓国の朴槿恵政権が推進している、経済の活性化に向けた 4 大改革（労働市場改革、公共部門改革、教育改革、金融改革）のなかでも、最優先課題に位置づけられている労働市場改革（賃金ピーク制と一般解雇ガイドラインの導入、就業規則変更要件の緩和など）について、その内容と問題点について詳しく説明された。そして、このような社会対立の激化をともなう社会的諸問題を解決し、東アジアの発展モデルの持続可能性を回復するための基本的諸条件（労使間の対話を通じた政治的妥協の形成など）が議論された。以上のような内容の講義は東アジア持続的経済発展研究コースの学生の知見の向上に大いに寄与したと考えられる。8 名の学生が受講した。</p>